

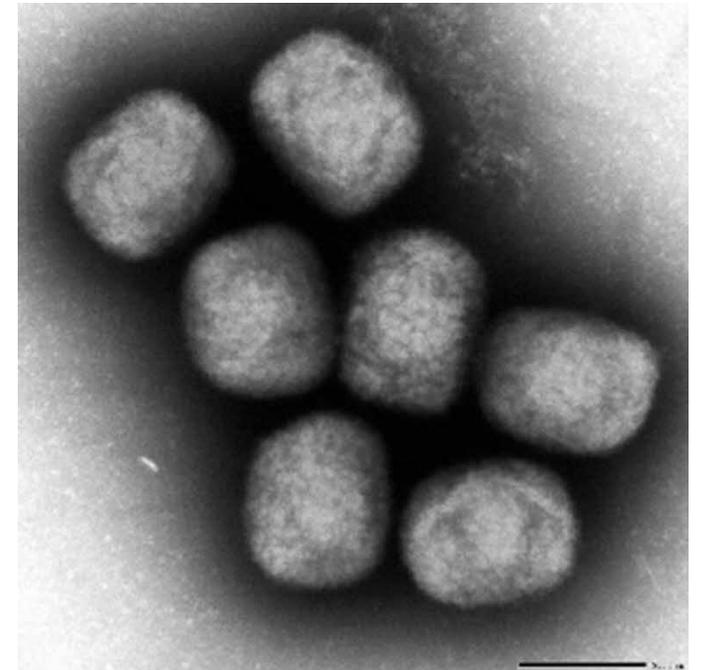
令和6年度動物由来感染症研修

# エムポックス (mpox) の現状

国立感染症研究所  
感染症危機管理研究センター長  
齋藤 智也

# エムポックス (Mpox)

- エムポックスウイルス (monkeypox virus; MPXV)  
感染による急性発疹性疾患  
(以前の疾病名は“サル痘 (monkeypox)”)
- 症状は発熱と発疹を主体とし、  
多くは2-4週間で自然に回復
- 動物由来感染症
  - 自然界の宿主はげっ歯類の可能性が示唆されている
- 1970年にザイール (現在のコンゴ民主共和国) で  
初めて報告されて以降、アフリカ中央部から西部にかけて  
主に発生していた
- 2022~2023年にヒト-ヒト感染による世界的な流行
- 感染症法上の4類感染症



サル痘ウイルスの電子顕微鏡写真  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/12052-mpox-intro.html>

# 疾病名について

- WHOは、2022年11月28日に、サル痘の名称について、“mpox (エムポックス)”の使用を推奨することを公表

<https://www.who.int/news/item/28-11-2022-who-recommends-new-name-for-monkeypox-disease>

- 感染症法上も政令改正により変更

- 疾病名：サル痘→**エムポックス**

- ウイルス名：モンキーポックスウイルス（別名：サル痘ウイルス）

- モンキーポックスウイルス（別名：**エムポックス**ウイルス）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001101181.pdf>

# エムポックスの感染経路

## • 動物由来感染

- 感染動物に咬まれること、感染動物の血液・体液・皮膚病変（発疹部位）との接触により感染

## • ヒト-ヒト感染

- 皮膚病変への接触（性的接触等）
- 近接した対面での呼吸器飛沫への一定時間以上の曝露\*  
\*主要な感染経路とは考えられていない

## • 感染者が使用した寝具等の媒介物を介した感染

- 一般に、発症から皮膚病変が治癒し、落屑するまでの間が他者への感染性がある期間とされる。

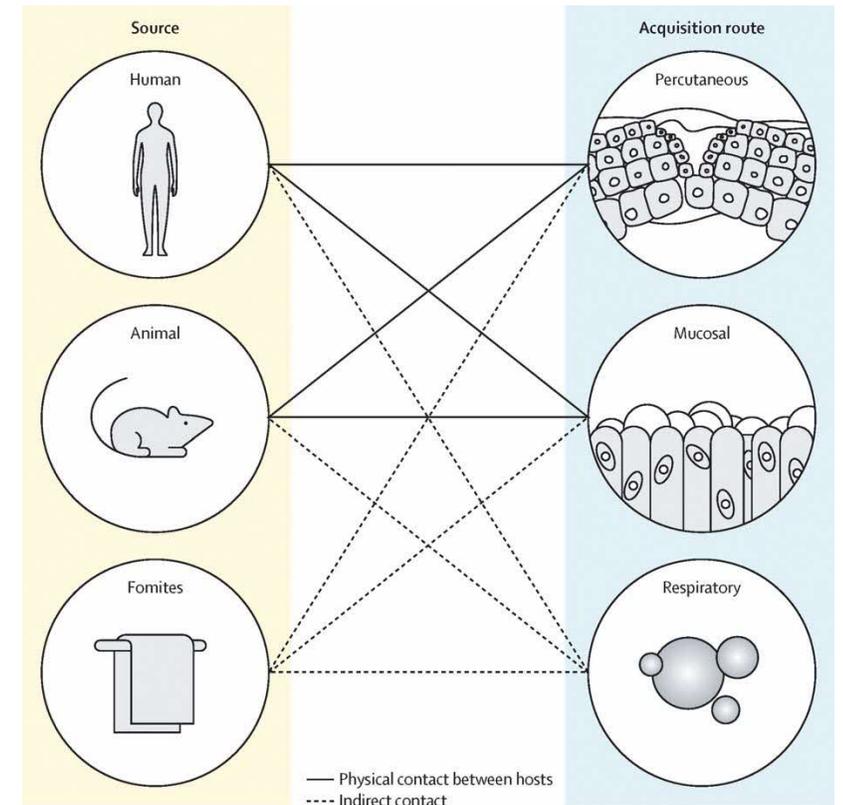


Figure. Main sources and potential acquisition routes of [MPXV](#) that have been documented historically  
CC BY-NC-ND 4.0  
[https://doi.org/10.1016/S2666-5247\(23\)00034-4](https://doi.org/10.1016/S2666-5247(23)00034-4)

# エムポックスの臨床像

- エムポックスの潜伏期間は5～21日(通常6～13日)。
- 潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などが1～5日続き、その後発疹が出現する。
- 発疹は典型的には顔面から始まり、体幹部へと広がる。初期は平坦であるが、水疱、膿疱化し痂皮化した後、発症から2～4週間で治癒する。
- 発疹は皮膚だけではなく、口腔、陰部の粘膜、結膜や角膜にも生じることがあるが、特に初期においては水痘や麻疹、梅毒などのその他の発疹症との鑑別が困難なことがある。リンパ節腫脹を呈する頻度が高く、類似した皮膚病変を示す天然痘との鑑別に有用とされる。
- 致命率は0～11%と報告され、特に小児において高い傾向にある。
- なお、2022年以降の欧米を中心とした流行では、以下のような従来の報告とは異なる臨床兆候が指摘されている。
  - 発熱やリンパ節腫脹などの前駆症状が見られない場合があること
  - 病変が局所（会陰部、肛門周囲や口腔など）に集中しており、全身性の発疹が見られない場合があること
  - 異なる段階の皮疹が同時に見られる場合があること



a) early vesicle,  
3mm diameter 水疱



b) small pustule,  
2mm diameter 膿疱



c) umbilicated pustule,  
3-4mm diameter 臍窩



d) ulcerated lesion,  
5mm diameter 潰瘍化



e) crusting of a mature  
lesion 痂皮形成



f) partially removed  
scab 落屑

UK Health Security Agency, 2022, Open Government Licence v3.0.

国立感染症研究所. エムポックスとは. 令和5年5月26日改訂. <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/12052-mpox-intro.html>  
厚生労働省. エムポックスについて. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html)

UK Health Security Agency, 2022, Open Government Licence v3.0.

# エムポックスの診断・治療法・予防法

## • 診断

- 水疱や膿疱の内容液や蓋、あるいは組織を用いたPCR検査による遺伝子の検出  
(参考：[国立感染症研究所. 病原体検出マニュアル：エムポックスウイルス. 第4版. 令和5年6月.](#))
- ウイルス分離・同定
- ウイルス粒子の証明、蛍光抗体法など

## • 治療

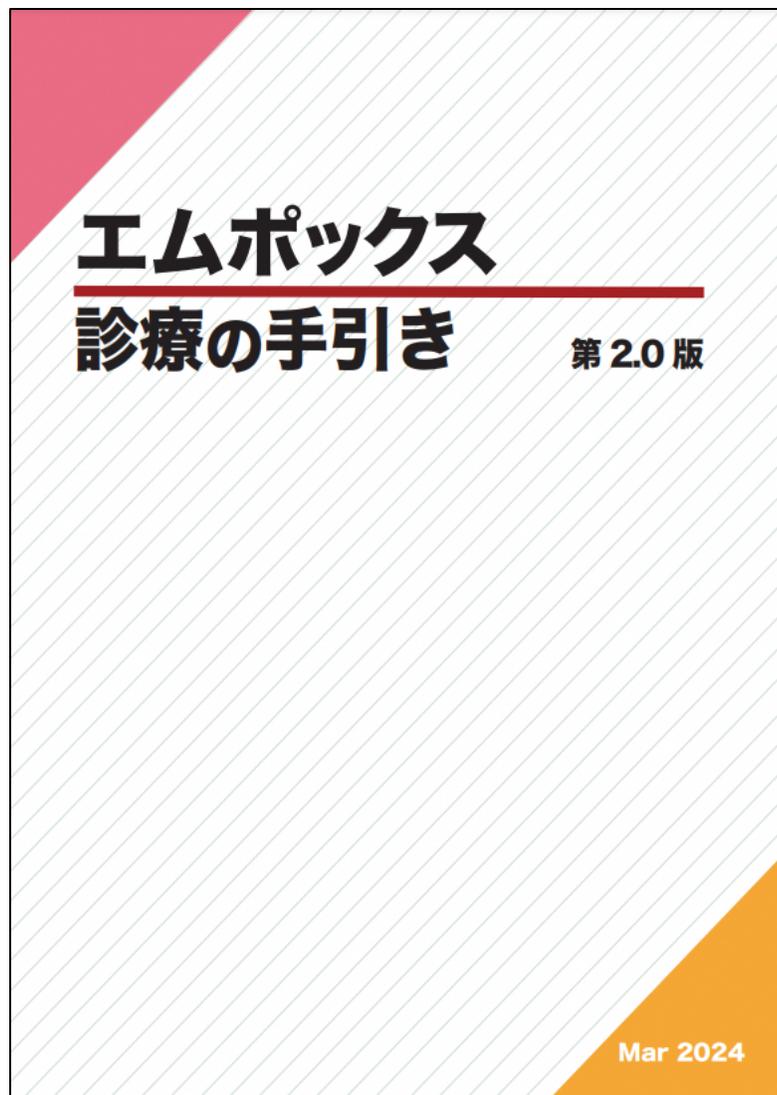
- 対症療法
- 国内で利用可能な薬事承認された治療薬はない。
- 欧州においては、特異的治療薬としてテコビリマットが承認されており、日本でも特定臨床研究が実施されている。

## • 予防法

- 天然痘ワクチン（痘そうワクチン）によって約85%発症予防効果があるとされている。
  - 日本では痘そうワクチンであるLC16ワクチンのエムポックスへの適応が追加されている。
- 流行地では感受性のある動物や感染者との接触を避ける。

厚生労働省. エムポックスについて. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html)

# 参考：エムボックス診療の手引き



エムボックス 診療の手引き 第2.0版

<https://www.mhlw.go.jp/content/001183682.pdf>

<https://dcc-irs.ncgm.go.jp/topics/mpox/>

# エムポックスの患者等への注意事項

- 皮疹が完全に治癒し、落屑するまでの間(概ね21日程度)はヒトやペットの哺乳類との接触を避ける。また、小児や妊婦、免疫不全者との密な接触も避ける。
- 性的接触についてはすべての皮疹が消失してから原則8週間は避ける。
- 接触者についても、接触後21日間は症状が出ないか注意し、発症時には速やかにヒトやペットの哺乳類との接触を避け、医療機関を受診することが求められる。また、症状が出ていない場合でも、小児や妊婦、免疫不全者との密な接触や、性的接触をできる限り控えるべきである。
- エムポックスの患者又は疑いとされた方は当面の間、献血は控えるよう厚生労働省から示されている。また接触者は、接触後21日間は献血を避けるべきである。

# エムポックスの疫学

- **2022年以前のサル痘\*流行** \*当時の呼称
- 2022年以降の流行

# 2022年以前のサル痘\*流行

\*当時の呼称

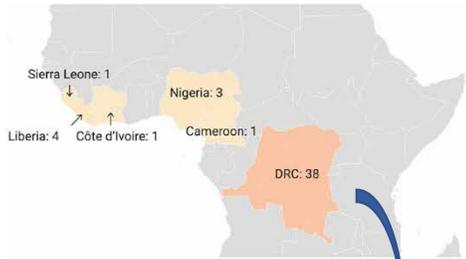
- 西～中央アフリカの熱帯雨林地域で発生
- 自然宿主は不明
  - 野生動物からウイルスが分離されたのは以下のみ
    - DRCのリス (a rope squirrel; *Funisciurus anerythrus*)
    - コートジボアールのサル (スーティマンガベイ a sooty mangabey; *Cercocebus atys*)
  - アフリカの齧歯類である可能性が示唆されている
- 狩猟やブッシュミートの加工による動物の病原体保有宿主（リザーバー）の生体・死体への接触が感染要因と考えられていた。
- 森林破壊や人口の変化、気候の変化、狩猟、人口移動により、動物とヒトの接触が近接し、感染者数の増加や流行地の拡大に寄与したと考えられる。
  - 内戦や人口移動により、サルやリス、その他齧歯類が代替タンパク源となった背景も。

参考： [Emergence of mpox in West Africa and Central Africa, 1970–2017](#). Weekly Epidemiological Record No. 11, 16 March 2018.  
Radonić A, Metzger S, Dabrowski PW, Couacy-Hymann E, Schuenadel L, Kurth A, et al. Fatal monkeypox in wild-living sooty mangabey, Côte d'Ivoire, 2012. Emerg Infect Dis. 2014. <http://dx.doi.org/10.3201/eid2006.131329>

# 2022年以前のサル痘\*流行

\*当時の呼称

1970年代



1980年代



1990年代



DRCで増加傾向

2000年代



• 初のアフリカ外症例

2010年代



アフリカで徐々に報告数増加

- 年齢中央値も増加傾向  
1970s: 4 才  
2010s: 21 才

2016年以降、  
- 中央アフリカ共和国  
- コンゴ民主共和国  
- リベリア  
- ナイジェリア  
- コンゴ共和国  
- シエラレオネ  
から報告。  
アフリカ外への輸出例も。

# 2022年以前のサル痘\*流行：初のアフリカ外症例

\*当時の呼称

- 2003年、米国の6州で47例（確定例・疑い例）の報告
- 原因：ペットのプレーリードッグとの接触
  - ガーナからテキサス州に輸入された齧歯類からプレーリードッグに感染
    - 6種類の齧歯類を含む9種、約800頭の小動物が輸入された
      - サバンナオニネズミ(African giant pouched rats)、ヤマネ (dormice)、ロープリス(rope squirrels)で感染が確認された
    - 何頭かの感染動物が、イリノイ州の動物販売業者の施設でプレーリードッグの近くで飼われていた
    - プレーリードッグは発症前にペットとして販売された
  - 感染は感染動物との接触と関連。感染したプレーリードッグの排泄物や分泌物に接触することで感染すると考えられる



プレーリードッグ

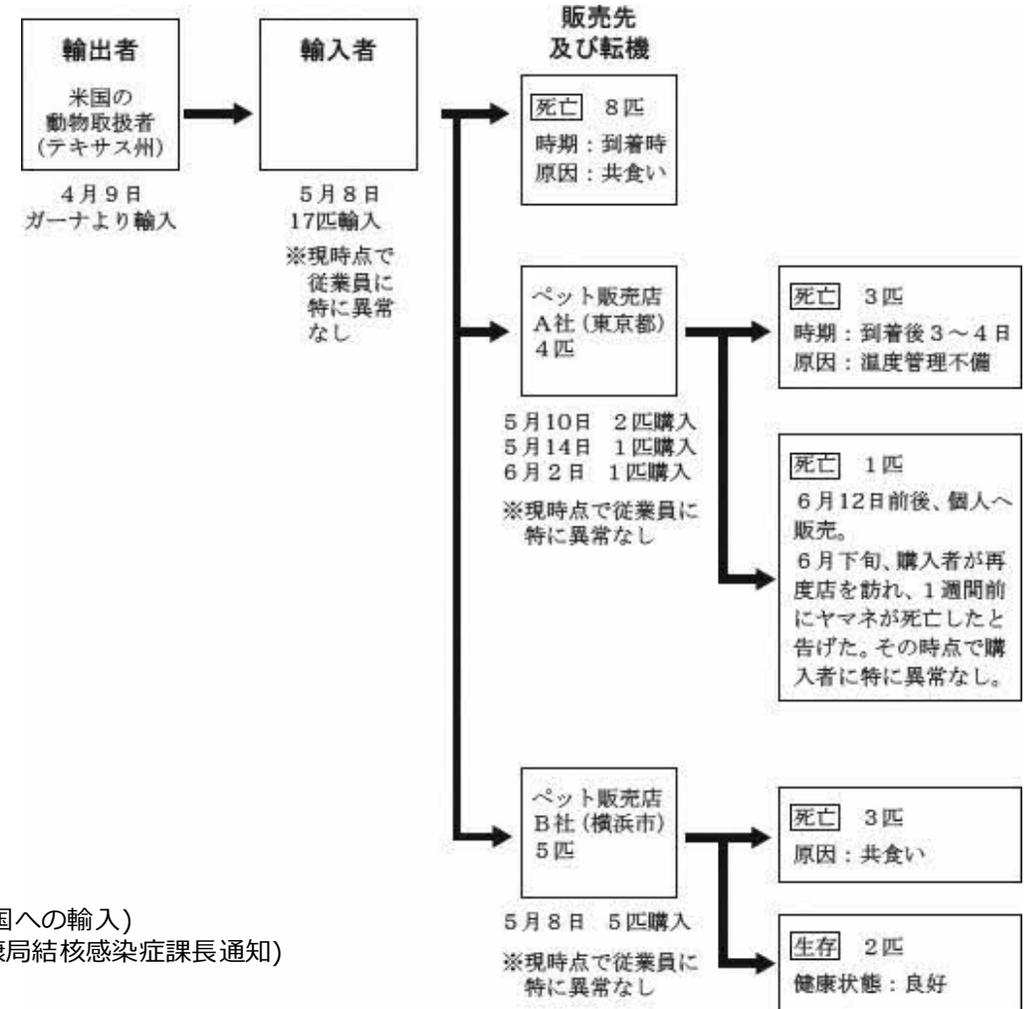
<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Prariehondjes1.JPG>  
Dick Mudde, Public domain, via Wikimedia Commons

CDC. Past U.S. Cases and Outbreaks. <https://www.cdc.gov/mpox/outbreaks/past-us-cases/index.html>  
Reynolds, MG., et al. 2007. "Spectrum of Infection and Risk Factors for Human Monkeypox, United States, 2003." *Emerging Infectious Diseases* 13 (9): 1332–39.

# 2022年以前のサル痘\*流行：米国事例の日本への影響

\*当時の呼称

- プレーリードッグの国内への輸入は禁止されていた。(2003.3.1~)
- 米国の調査で、テキサス州へ輸入された齧歯類のうち、アフリカヤマネ17匹が2003年5月8日に日本へ輸出されたことが判明。
- 厚生労働省の調査により、7月3日時点では輸入されたアフリカヤマネ17匹中15匹がすでに死亡し、2匹のみが生存していた。この2匹について、国立感染症研究所でサル痘ウイルスの検査（PCR、ウイルス分離、抗体検査）を行った結果、陰性であった。



○米国における人でのサル痘(Monkeypox)の発生について(第2報)(感染源動物の特定と疑いのある動物の我が国への輸入)  
(平成15年7月3日)(健感発第0703001号)(各都道府県・各政令市・各特別区衛生主管部(局)あて厚生労働省健康局結核感染症課長通知)  
ガーナから米国経由で輸入されたサル痘に感染の疑いがあるアフリカヤマネの流通実態について  
(輸入業者及び販売店からの聞き取りに基づく)  
[https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tb8600&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tb8600&dataType=1&pageNo=1)

- 2017年9月、ナイジェリアで1978年以来のサル痘患者発生
- 2017年9月～2018年9月に、17州で計122例（確定・可能性例）、7名の死亡を確認。
- これまでの知見とは異なる所見
  - （これまで流行地域として知られていた熱帯雨林地域のみならず）都市部でも患者
  - 野生動物との接触のほか、家族や刑務所、性的接触など、ヒト-ヒト感染を示唆する所見
  - ほとんどの症例が若年成人で発生
  - 68%に性器に発疹

Yinka-Ogunleye, Adesola, Olusola Aruna, Mahmood Dalhat, Dimie Ogoina, Andrea McCollum, Yahyah Disu, Ibrahim Mamadu, et al. 2019.  
"Outbreak of Human Monkeypox in Nigeria in 2017-18: A Clinical and Epidemiological Report." *The Lancet Infectious Diseases* 19 (8): 872-79.

# 2022年以前のサル痘\*流行：アフリカ外の事例

\*当時の呼称

- 米国 (MMWRほか)
  - 2003年：ガーナから輸入された齧歯類から感染したプレーリードッグから感染。6州で計47例
  - 2021年：ナイジェリアからの輸入例 2 例 (Costello, 2022)
- イギリス (UK HSA)
  - 2018年：ナイジェリアからの輸入例 2 例 + 院内感染 1 例  
(アフリカ外初の輸入症例。2022年以前では唯一のアフリカ外で家族以外のヒトヒト感染)
  - 2019年：ナイジェリアからの輸入例 1 例
  - 2021年：ナイジェリアからの輸入例 1 例 + 家族感染 2 例
- イスラエル (Erez, 2019)
  - 2018年：ナイジェリアからの輸入例 1 例
- シンガポール (Yong, 2020)
  - 2019年：ナイジェリアからの輸入例 1 例

# エムポックスウイルス (MPXV)の系統群 (クレード)

## • コンゴ盆地系統群

(Congo-basin clade; 現在のクレード I)

中央アフリカ系統群(Central African clade)という呼び方も

- 中央アフリカ共和国
- コンゴ民主共和国
- 南スーダン

## • 西アフリカ系統群

(West African clade; 現在のクレードII)

- ナイジェリア
- シエラレオネ
- アフリカ外への輸出例

- コンゴ盆地系統群 (クレードI) は高い重症度や致命率と関連するとされ、動物モデルでも病毒性に違いがみられる

中央アフリカクレード  
(コンゴ盆地クレード)  
の数が圧倒的に多い

アフリカ外への輸出例は  
西アフリカクレード



Decade	Central African Clade (N)	West African Clade (N)	Total Cases
1970-1979	38	9	47
1980-1989	355	1	356
1990-1999	520	0	520
2000-2009	92 confirmed 10,027 suspected <sup>2</sup>	47	139 10,027
2009-2019	85 confirmed 18,788 suspected <sup>2</sup>	195	280 18,788

<sup>1</sup> The five cases from Cameroon are not included in this table, as clade was not reported in any of the articles and WHO reported that Cameroon is the only country in which both clades have been detected [12].

<sup>2</sup> Suspected cases are from the Democratic Republic of the Congo, as number of suspected cases rather than confirmed cases were primarily reported. Suspected cases for other countries are not reported since testing of suspected cases was generally undertaken.

<https://doi.org/10.1371/journal.pntd.0010141.t002>

Bunge et al., 2022 / The changing epidemiology of human monkeypox—A potential threat? A systematic review / CC BY 4.0  
<https://journals.plos.org/plosntds/article?id=10.1371/journal.pntd.0010141> (赤枠は発表者による追記)

# エムポックスの疫学（世界）

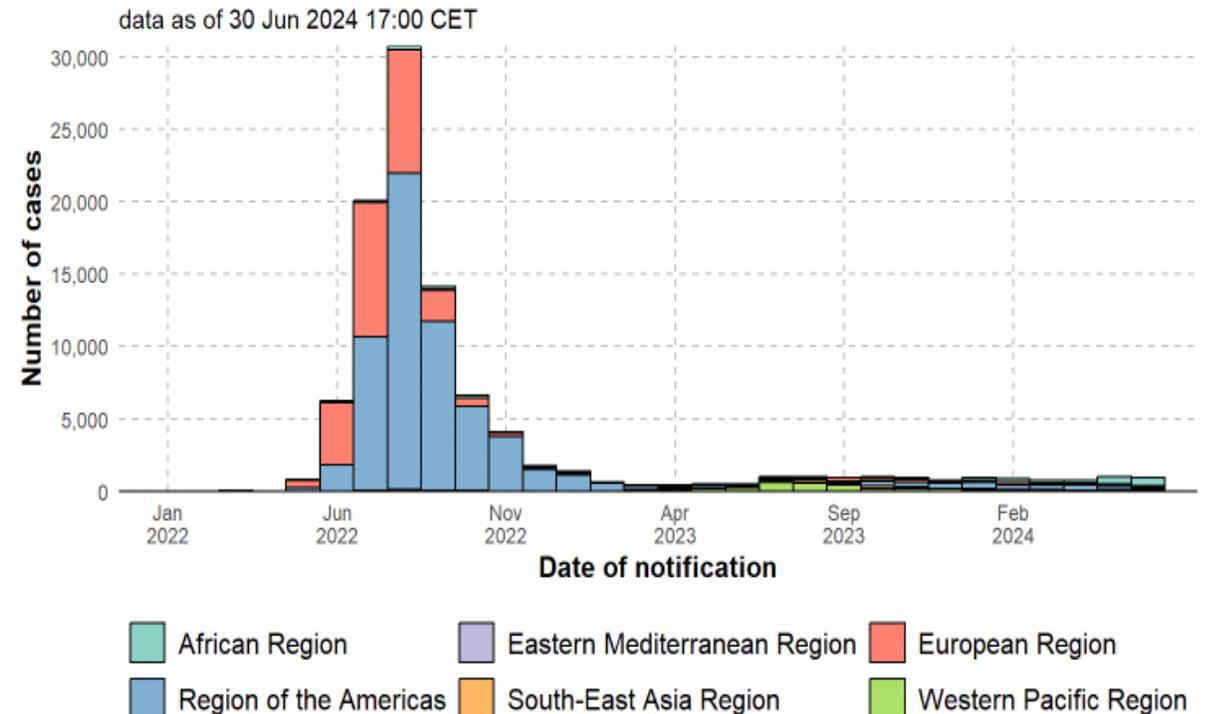
- **2022年以前のサル痘\*流行** \*当時の呼称
  - 西～中央アフリカ熱帯雨林地域で発生
    - アフリカ外では概ね渡航関連例に限られる
  - 動物→ヒト感染が主体
  - 重症度が高いコンゴ盆地系統群（現在のクレードI）が主
- **2022年以降の流行**

# エムポックスの疫学（世界）

- 2022年以前のサル痘\*流行 \*当時の呼称
- **2022年以降の流行**
  - **2022~2023年の世界的流行（クレードIIb）**
  - 2024年のアフリカにおける流行拡大（クレードI）

# 2022~2023年のエムポックスの世界的流行

- 2022年5月の英国からの報告を皮切りに、従前のエムポックス流行国への海外渡航歴のないエムポックス患者が世界各地で報告
- 欧米を中心に感染者が増加、男性間で性交渉を行う者（MSM）が多く含まれる
- WHOは複数国での感染増加について、PHEIC\*を宣言（2022.7.23~2023.5.11）
- クレードIIb\*\*と主に関連



Source: WHO

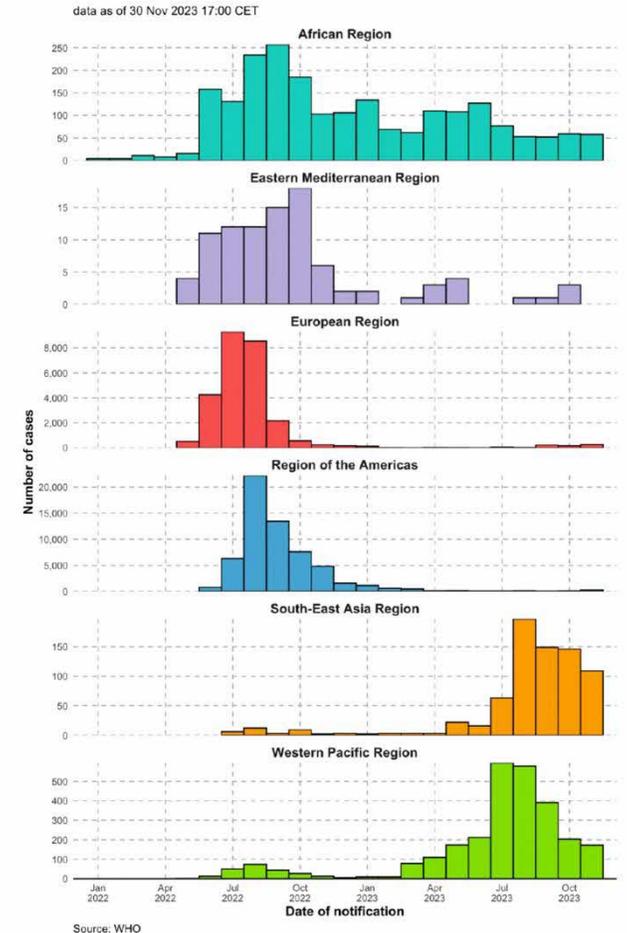
[https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\\_global/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/)

\* 国際的な公衆衛生上の緊急事態 (Public Health Emergency of International Concern)

\*\*Clade I/IIは「クレード」、Clade Ia/Ib/IIa/IIbは厳密には「サブクレード」だが、「クレード」で総称

# 2022~2023年のエムポックスの世界的流行

- 2022年1月1日～2023年11月30日の集計
  - 検査確定例：92,783
  - 死亡：171
  - 報告国・地域・領域数：116
  - 性別：**男性が96.4%** (82,528/85,649)
  - 年齢：**中央値 34才** (四分位範囲：29才～41才)
  - 感染経路：**性的接触が83.1%** (17,907/21,561)
  - 主な症状：発疹 (89.9%)、発熱 (58.4%)
- クレードIIbの流行は小規模ながらも現在も継続
  - 性的接触により感染した成人男性MSM (男性間性交渉者) が主
  - 女性や小児の感染事例もあるが、継続した伝播は生じていない



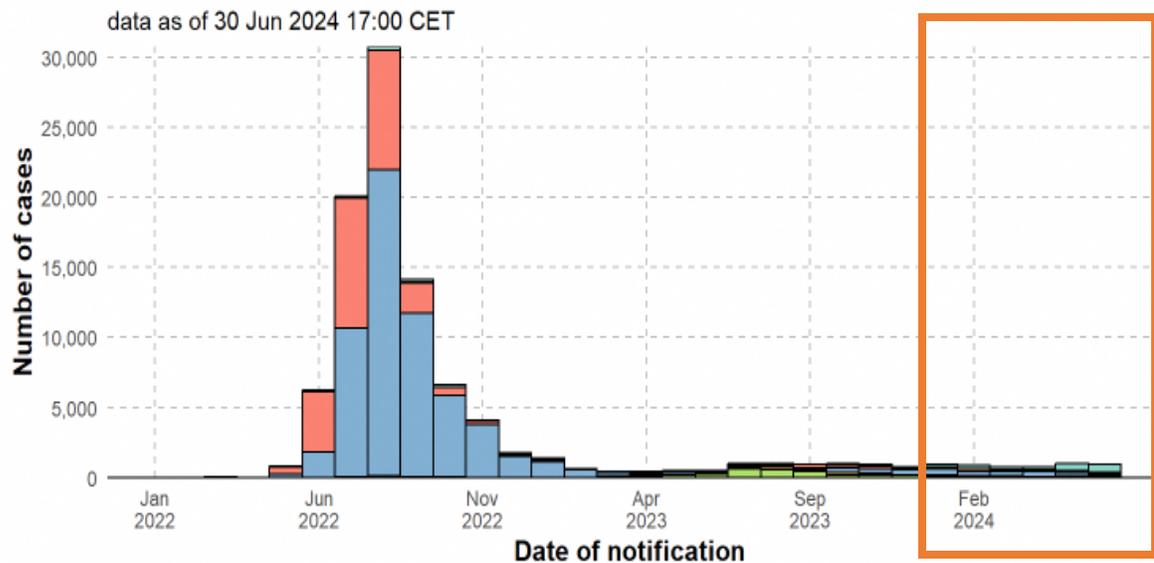
WHO. Multi-country outbreak of mpox: External Situation Report 31. 2023.12.22.

地域別のエピカーブ  
(縦軸のスケールに注意)

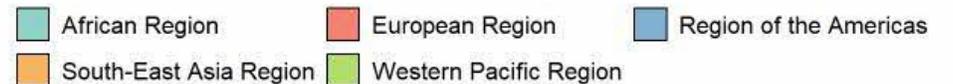
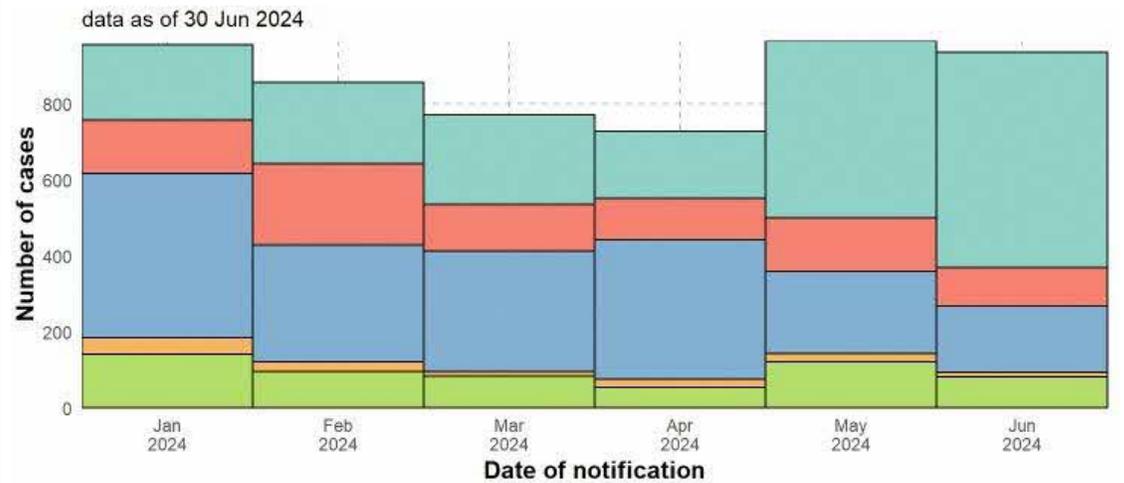
# エムポックスの疫学（世界）

- 2022年以前のサル痘\*流行 \*当時の呼称
- **2022年以降の流行**
  - 2022~2023年の世界的流行（クレードIIb）
  - **2024年のアフリカにおける流行拡大（クレードI）**

# アフリカでの流行は継続、拡大



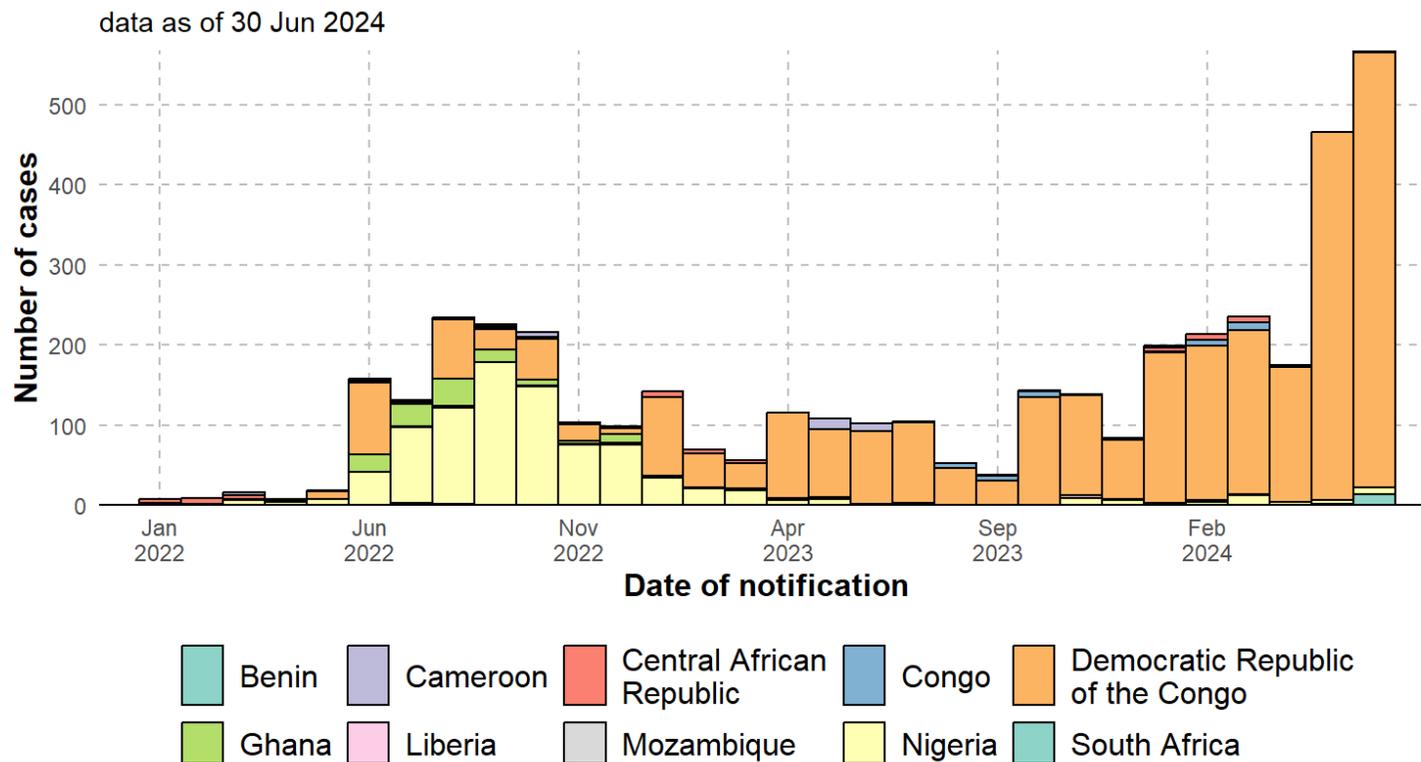
Source: WHO



Source: WHO

[https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\\_global/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/)

# アフリカでの流行は継続、拡大



Source: WHO

コンゴ民主共和国（DRC）では2023年に過去最大の感染者数・死亡者数を報告  
感染者 14,626例  
死者 654例（致命割合(CFR) 4.5%）

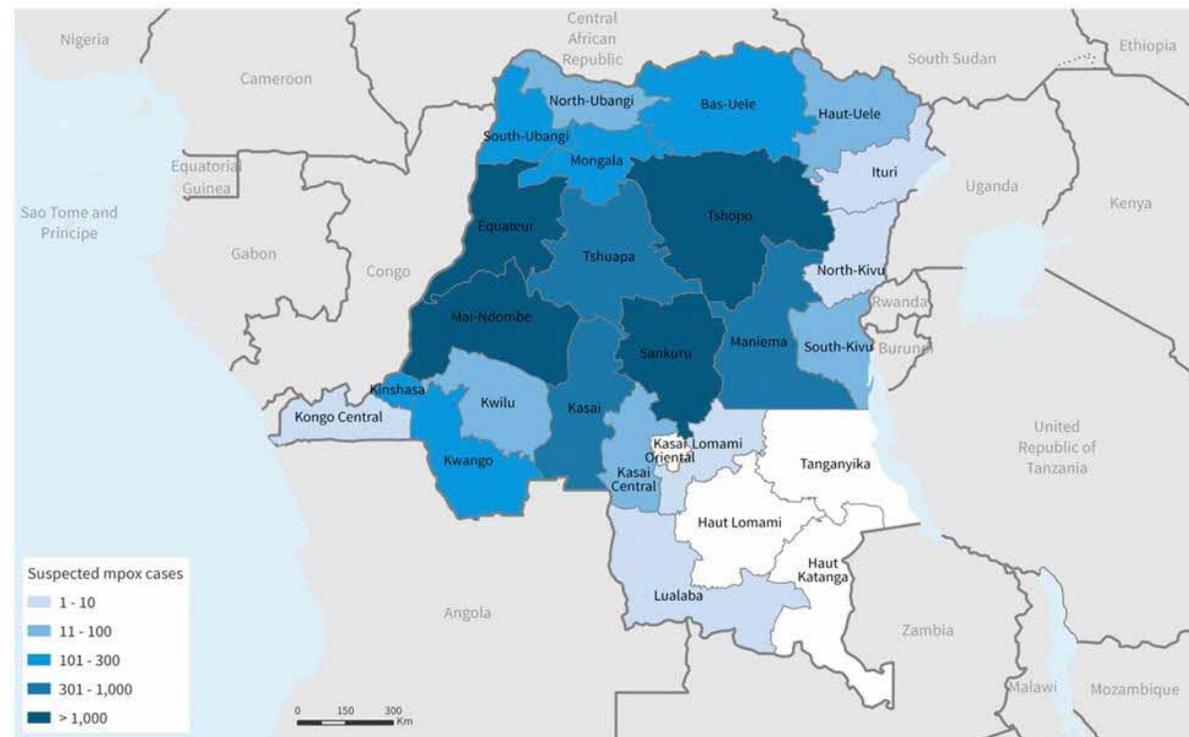
うち、検査診断されたのは  
1,461例（10%）  
うち、  
966例が陽性（検査陽性率 68%）

**Disease Outbreak News**  
**Mpox - Democratic Republic of the Congo** 14 June 2024  
<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2024-DON522>

[https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx\\_global/](https://worldhealthorg.shinyapps.io/mpx_global/)

# コンゴ民主共和国（DRC）におけるエムポックス流行の様相の変化

- 世界的なクレードIIbの流行時も、DRCではクレードIのみ検出
- 2023年4月、初の性的接触によるクレードIの感染事例報告
- 2023年8月、首都キンシャサで感染者発生
  - 流行地からの渡航者から地域での伝播もあり
- 2023年、南キブ州で初の感染者の報告
  - 人道的危機が続く地域
  - 性的接触による感染
  - 新しいクレードIbウイルスによる動物への曝露歴がないヒトヒト感染が確認される



The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization, The Ministry of Public Health of the Democratic Republic of the Congo  
Map Production: WHO Health Emergencies Programme  
Map Date: 20 November 2023



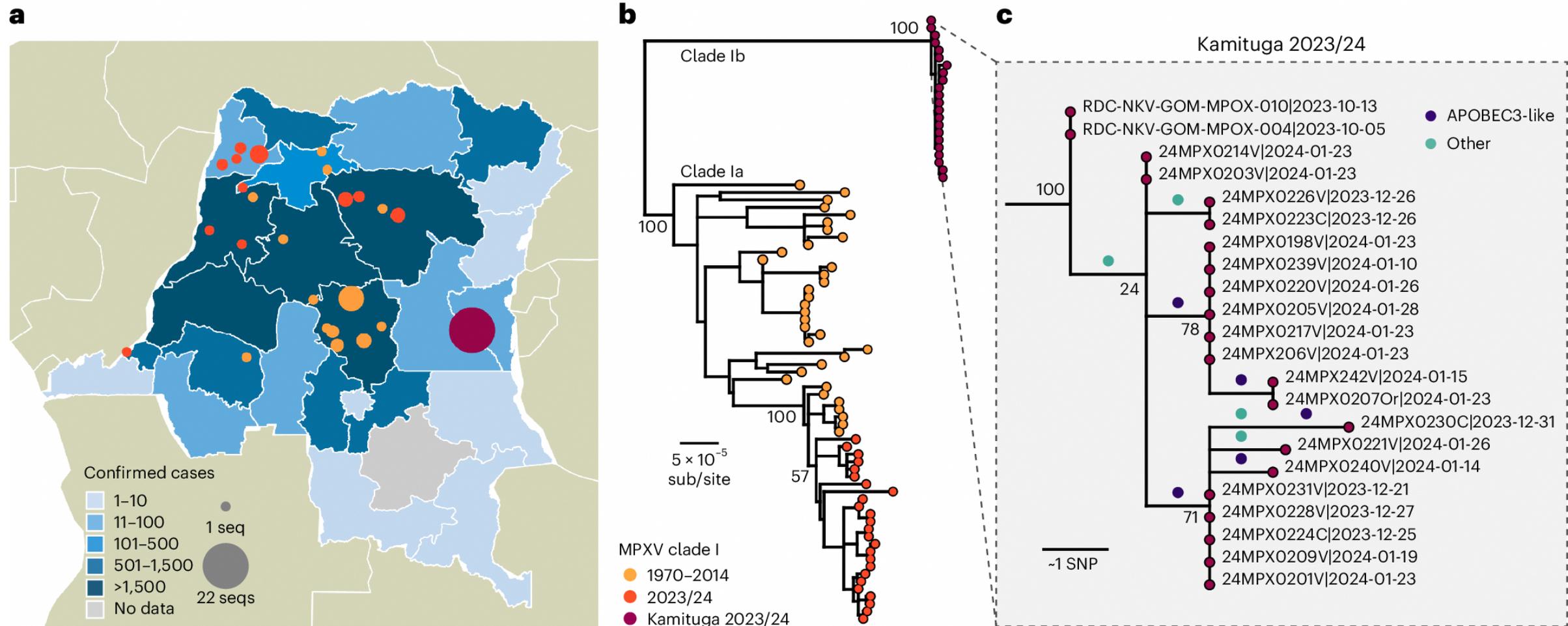
Disease Outbreak News Mpox - Democratic Republic of the Congo 23 November 2023/14 June 2024

<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2023-DON493>

<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2024-DON522>

DRC:コンゴ民主共和国

# コンゴ民主共和国南キブ州カミツガにおける流行, 2023~2024



**Fig. 1: Mapping number of reported mpox cases and genomics analysis, Kamituga, DRC.** From: [Sustained human outbreak of a new MPXV clade I lineage in eastern Democratic Republic of the Congo](#) Vakaniaki, E.H., Kacita, C., Kinganda-Lusamaki, E. *et al.* Sustained human outbreak of a new MPXV clade I lineage in eastern Democratic Republic of the Congo. *Nat Med* (2024). <https://doi.org/10.1038/s41591-024-03130-3> CC-BY 4.0

# コンゴ民主共和国（DRC）からの流行拡大, 2024年6月～

- 2024年6月以後、DRC東部と疫学的関係のあるクレードIb症例が、これまでエムポックスの報告がなかったDRC周辺の4カ国（Burundi, Kenya, Rwanda, Uganda）から報告。

## • ブルンジ

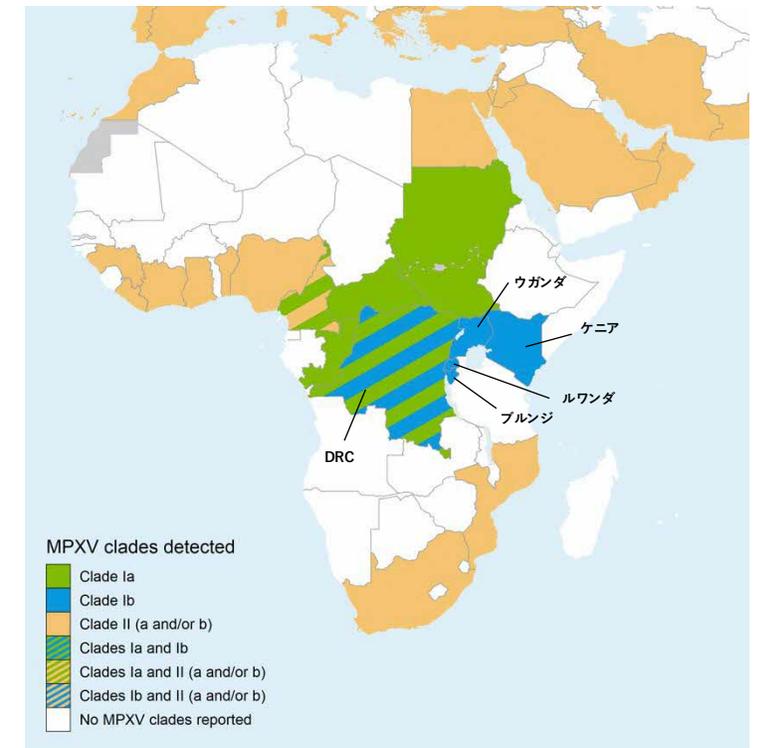
- 2024年7月以降1,287例の確定例。49地域中42地域から報告。
- 南キブ州と同様、5歳未満と若年～中年層に多い。

## • ウガンダ

- 2024年7月以降153例の確定例。流行拡大中。
- 多くは成年層で性的接触による伝播。感染拡大とともに小児例が増加。
  - 家庭内やコミュニティでの感染の割合の増加は南キブ州やブルンジでも観察されている。

## • ケニア

- 確定例14例。71%(14例中10例) は近隣の発生国への旅行歴やその接触者。

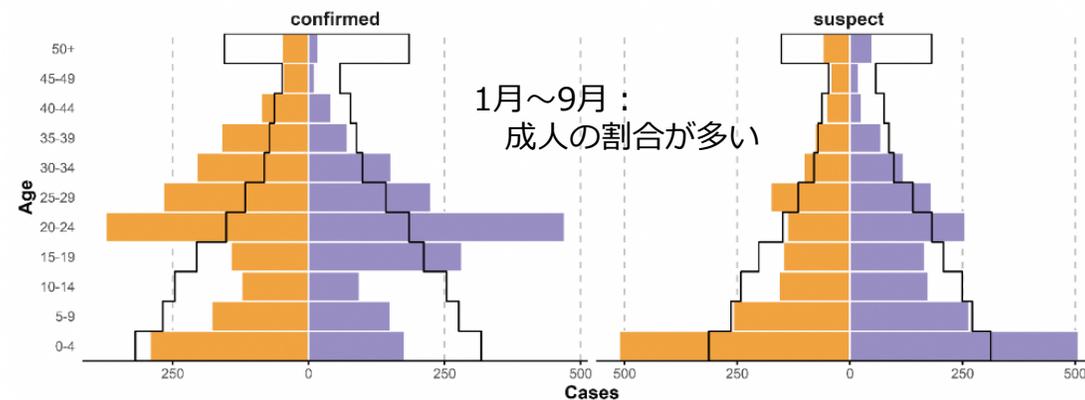


[WHO. Multi-country outbreak of mpox. External situation report #41- 26 October 2024](#)  
[WHO. 2022-24 Mpox \(Monkeypox\) Outbreak: Global Trends. 25 October 2024](#)

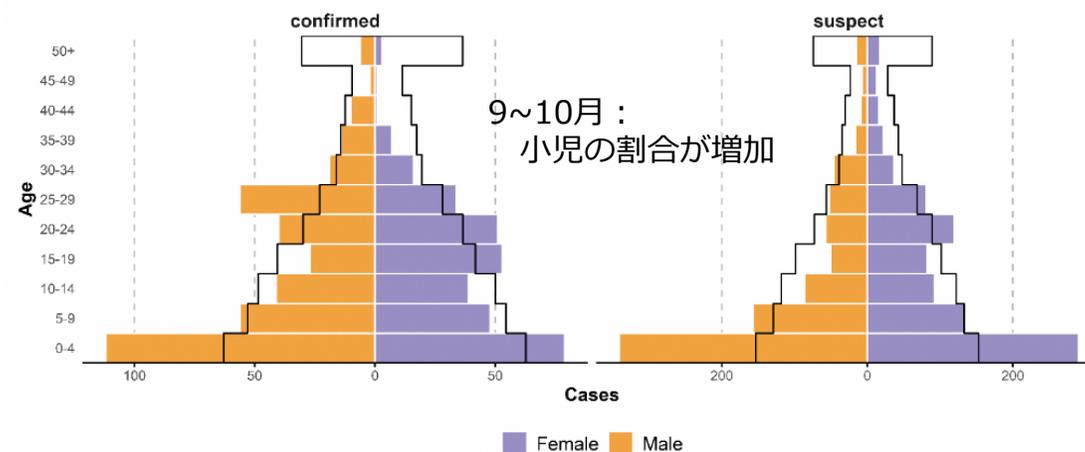
# コンゴ民主共和国（DRC）におけるクレードIbの流行状況

- 南キブ州で感染者の増加傾向が継続
  - クレードIbによるもの
- **ヒトヒト間の濃厚接触により感染者が増加**
  - 性的接触
  - 家庭やコミュニティにおける直接的な濃厚接触
- クレードIbによる東部の流行の当初は主に成人が多かったが（右図上）、流行が進むにつれて、濃厚接触によるより広範なコミュニティ流行を反映して、**成人と小児の両方に流行している**（右図下）

Previous data (01 Jan - 01 Sep)



Recent data (02 Sep - 13 Oct)



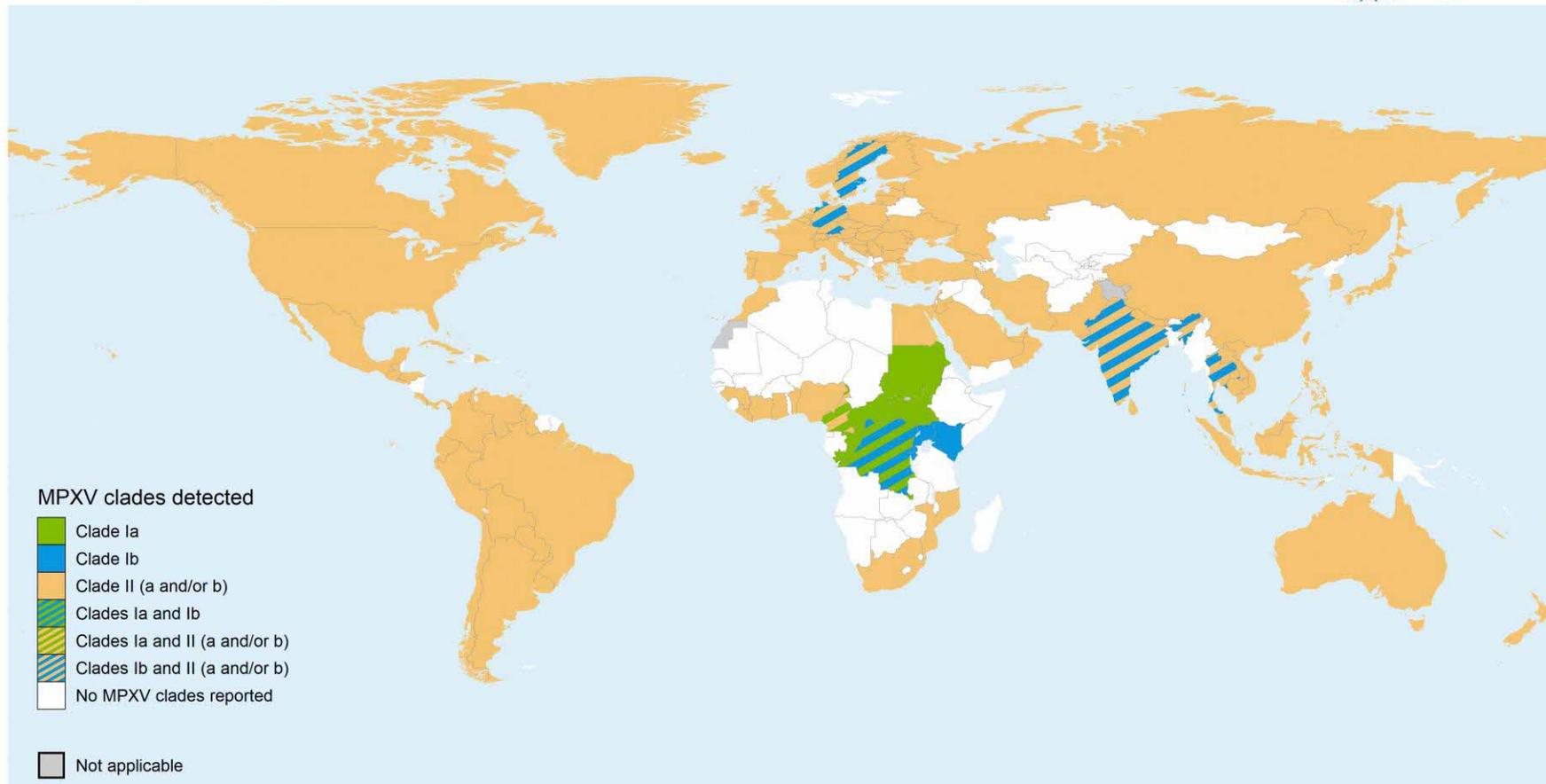
Data sources: DRC Ministry of Public Health, UN Department of Economics and Social Affairs  
Note: Uses modelled estimates of population size by province.

[WHO. Multi-country outbreak of mpox. External situation report #41- 26 October 2024](#)  
[WHO. 2022-24 Mpox \(Monkeypox\) Outbreak: Global Trends. 25 October 2024](#)

# エムポックスの世界的流行状況

## MPXV clades detected globally

includes imported cases; known distribution as of 20 Oct 2024



### Clade Ibを検出した国 (アフリカ内)

- コンゴ民主共和国
- ブルンジ
- ケニア
- ルワンダ
- ウガンダ

### (アフリカ外)

- スウェーデン\*
- タイ\*
- ドイツ\*
- インド\*\*
- UK\*

\*アフリカからの渡航者  
\*\*UAEからの渡航者

The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization  
Map Production: WHO Health Emergencies Programme  
© WHO 2024. All rights reserved.

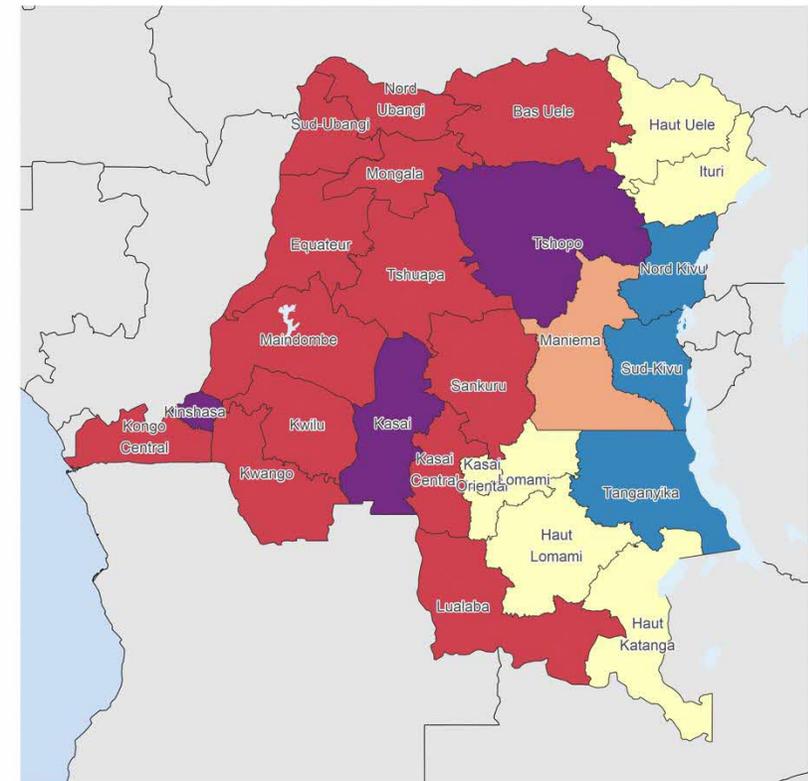
[WHO. Multi-country outbreak of mpox. External situation report #41- 26 October 2024](#)  
[WHO. 2022-24 Mpox \(Monkeypox\) Outbreak: Global Trends. 25 October 2024](#)

# コンゴ民主共和国（DRC）における流行状況

- コンゴ民主共和国ではクレードIa・Ibが流行
  - 大半の地域はクレードIaのみ検出
  - 主に東部でクレードIbが検出
  - 首都キンシャサでは両クレードが検出

注) PCRでMPXV陽性例の10%程度で遺伝子配列が決定されているが、地域によって検査実施率には差がある。そのため、クレードの分布を正確に反映していない可能性がある。

MPXV clades detected in the Democratic Republic of the Congo  
As of 13 Oct 2024



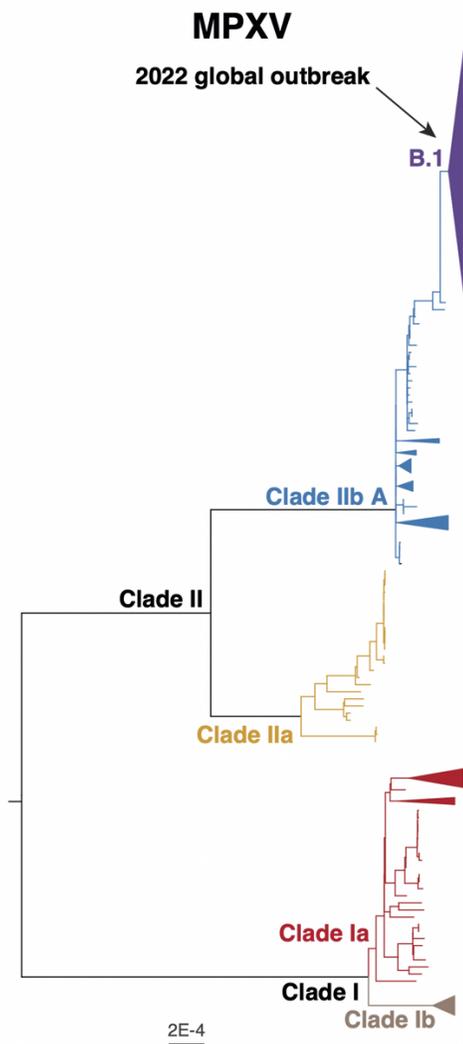
Classification of province  
■ Clade Ia ■ Clades Ia and Ib ■ Non-endemic provinces, no sequencing from 2023  
■ Clade Ib ■ Endemic provinces, no sequencing from 2023

Source: MPXV genome sequences and metadata accessible via INRB, Genbank, and GISAID

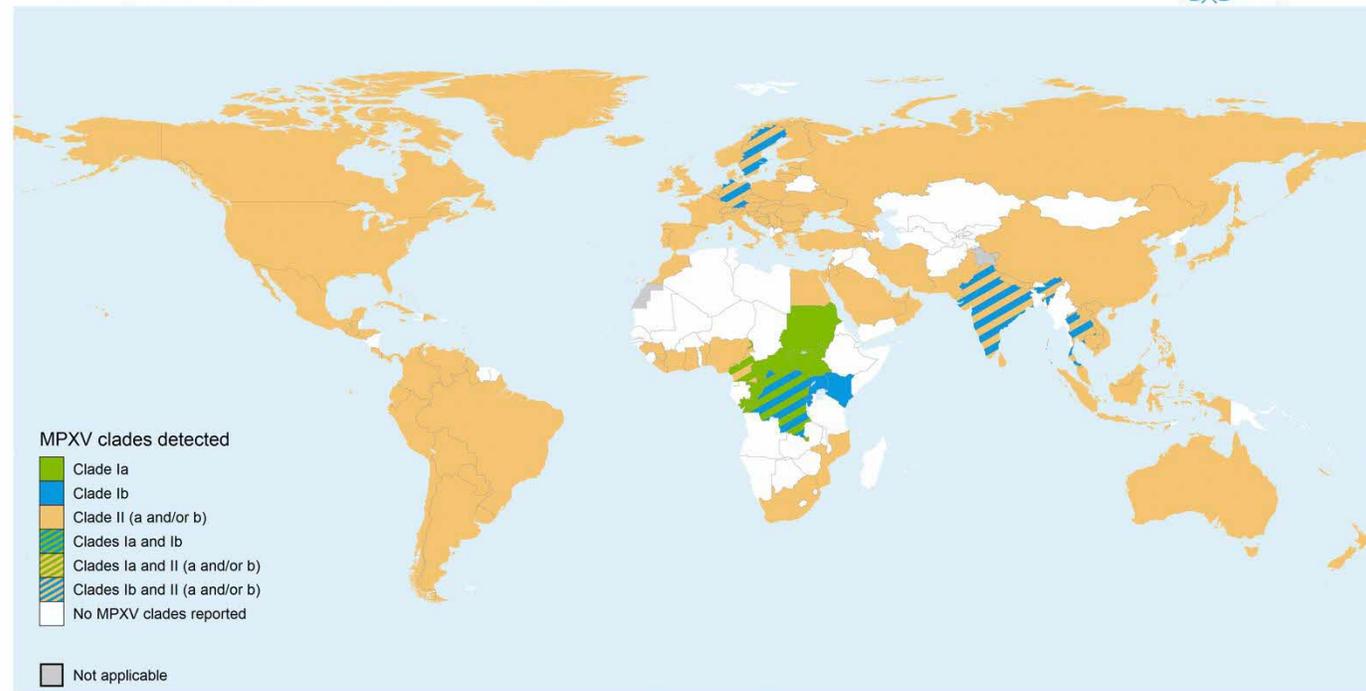
[WHO. Multi-country outbreak of mpox. External situation report #41- 26 October 2024](#)  
[WHO. 2022-24 Mpox \(Monkeypox\) Outbreak: Global Trends. 25 October 2024](#)

# クレード別の流行状況

- クレード I
  - クレード Ia
  - クレード Ib
- クレード II
  - クレード IIa
  - クレード IIb



MPXV clades detected globally  
includes imported cases; known distribution as of 20 Oct 2024



The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of WHO concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its frontiers or boundaries. Dotted and dashed lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.

Data Source: World Health Organization  
Map Production: WHO Health Emergencies Programme  
© WHO 2024. All rights reserved.

[WHO. Multi-country outbreak of mpox. External situation report #41- 26 October 2024](#)  
[WHO. 2022-24 Mpox \(Monkeypox\) Outbreak: Global Trends. 25 October 2024](#)

# その他のクレードの流行状況

## • クレード Ia

- 主にコンゴ民主共和国（DRC）、ほか中央アフリカ共和国で流行
- コンゴ共和国でも報告があるが、コミュニティでの継続的な伝播が起きている状況ではない
- かつては野生動物への曝露が原因とされていたが、近年はヒトでの継続的な伝播があるとされる。
- コンゴ民主共和国・中央アフリカ共和国では主に小児の症例だが、コンゴ共和国では大半が大人の症例である。

## • クレード IIa

- ギニア、リベリア、コートジボワールより報告
  - コートジボワールのみ継続したコミュニティ伝播あり
- 成人・小児ともに報告があるが、情報が限られており伝播様式は不明。

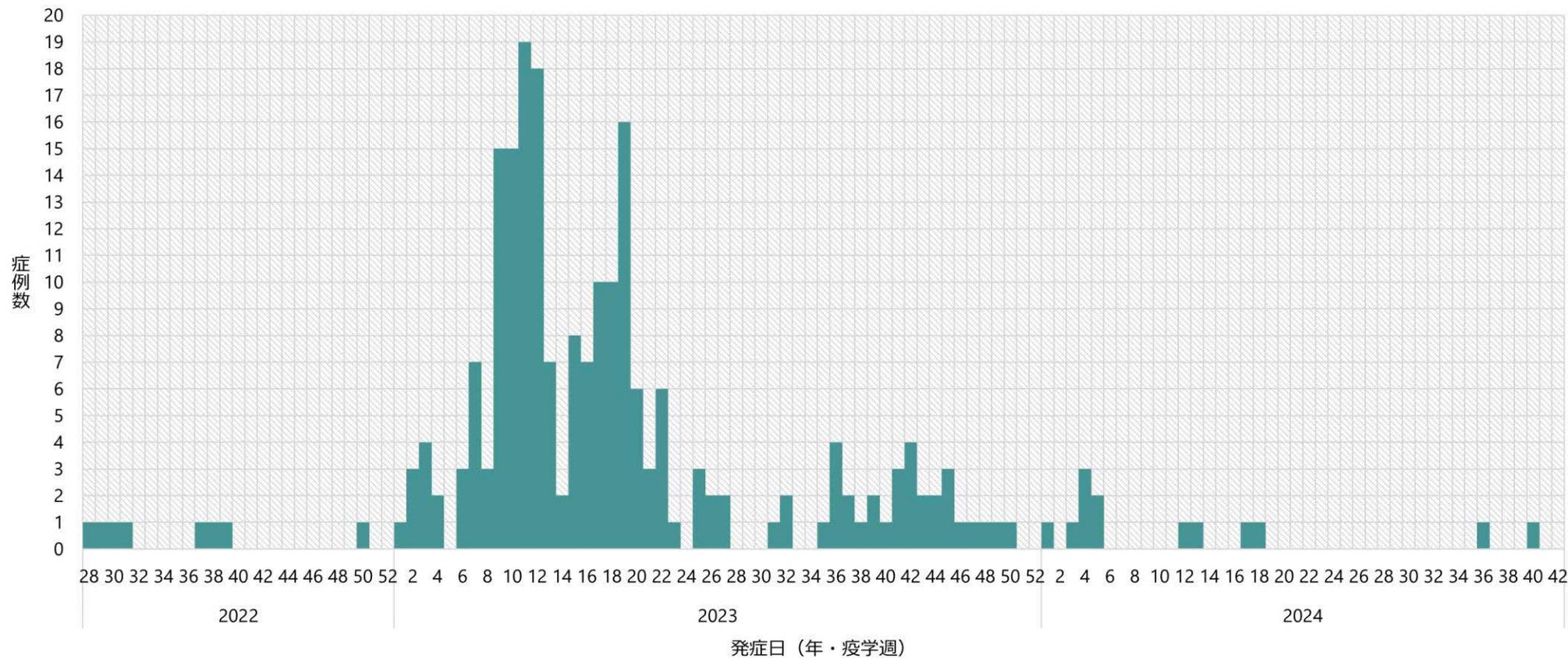
# エムポックスの疫学（世界）

- 2022年以前のサル痘\*流行 \*当時の呼称
- **2022年以降の流行**
  - 2022~2023年の世界的流行（クレードIIb）
  - 2024年~の 아프리카における流行拡大（クレードI）
    - 性的接触を中心としたヒトーヒト感染から  
コミュニティにおける流行拡大
    - クレードI（特にクレードIb）の流行地域の拡大

# エムポックスの国内発生状況（1）

国内では、2022年7月25日に、国内1例目の患者が報告された。

2023年以降も、患者の発生が続いており、251例（前週比+0名）の症例が確認されている（2024年10月25日更新）。



[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html)

# エムポックスの国内発生状況（2）

表1. エムポックス探知例の特徴 2022年5月2日～2024年2月25日  
(疫学週2022年第18週～2024年第8週)(n=240 2024年3月1日集計時点)

	項目	人数	割合
性別	男性	240	100%
年代	20代以下	34	14.2%
	30代	92	38.3%
	40代	94	39.2%
	50代以上	20	8.3%
症状	あり	235	97.9%
	発疹	215	89.6%
	発熱	174	72.5%
	リンパ節腫脹	80	33.3%
	肛門直腸痛	53	22.1%
	倦怠感	45	18.8%
	なし	5	2.1%
	感染経路(推定・確定)	接触感染	229
発症前21日間の性的接触	あり	175	72.9%
HIV罹患 <sup>†</sup>	あり	105	61.8%
STIの既往歴 <sup>†</sup>	あり	143	84.1%
うち梅毒の既往歴 <sup>†</sup>	あり	74	43.5%
転帰 <sup>†</sup>	死亡	1	—

<sup>†</sup>届出及び保健所による疫学調査により把握された情報に基づく  
(n=170 不明もしくは2024年3月1日時点で情報のない70例除く)

## 2024年2月25日時点で国内では240例が探知

- 国内でも男性同士の性的接触による感染伝播が中心となっている可能性が示唆される
  - 症例は全て男性
  - うち229例(95.4%)で推定される・確定した感染経路として接触感染があったことを確認。175例(72.9%)で発症前21日間に性的接触あり

## 国内死亡例

- 2023年12月13日、2023年9月に診断された症例1例の死亡が確認され、国内初の死亡例として、厚生労働省が公表。

## 海外渡航歴

- 2022年38週以降は海外渡航歴のない症例が主体

国立感染症研究所. 複数国で報告されているエムポックスについて(第7報) 2024年3月21日時点

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/monkeypox-m/2596-cepr/12570-mpox-ra-0321.html>

# 差別や偏見への対策

- 特定の集団や感染者、感染の疑いのある者等に対する差別や偏見は、人権の侵害につながる。さらに、受診行動を妨げ、感染拡大の抑制を遅らせる原因となる可能性がある。
- 偏った情報や誤解は差別や偏見を生むため、客観的な情報に基づき、先入観を排した判断と行動が推奨される。